

麗澤に学んで



令和4年度

麗澤高等学校

麗澤高校の道德教育

麗澤高等学校では、毎朝のショートホームルームにおいて、教室に掲げた『心のカレンダー』（本校の教育理念の根幹である「モラロジー」の内容を、カレンダー形式に31の格言にまとめたもの（公益財団法人モラロジー道德教育財団刊）を生徒が読み上げることから一日がスタートし、週に1時間全クラスで道德の授業を行っています。この授業は本校の人間教育の大きな柱をなし、クラス担任が中心となって進めています。授業は、テキストである『最高道德の格言』（本校の創立者である法学博士廣池千九郎がまとめた格言集。公益財団法人モラロジー道德教育財団刊）に掲載されている格言についての生徒による研究発表から始まります。これに続いて、「モラロジー」を土台として「感謝の心、思いやりの心、自立の心」を育むことを念頭に、本校の教員がそれぞれの知識や経験に基づいて授業を展開します。

一方で、男子寮・女子寮では学園創立以来、道德を実践する場としてのモラロジー教育・麗澤教育が脈々と受け継がれています。朝礼・夕礼、規律正しい集団生活を通して、父母・祖先・および恩人に感謝する心、相手を敬い思いやる心、率先垂範の心がけなど、様々なことを学んでいます。

ここでは、令和4年度卒業証書授与式の「卒業生代表答辞」、令和4年度6年生による「高校生活をふりかえって」、寮生による「寮生活で学んだこと」（保護者学級で発表した体験発表、格言研究として夕礼で発表した内容など）を紹介させていただきます。

長く厳しい冬の寒さも和らぎ、優しい春の光が差し込む季節となりました。本日はご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、このような盛大な式典を催していただいたことに、卒業生一同心より御礼申し上げます。

振り返ると、三年前の春、麗澤高校生として新たな生活に胸を高鳴らせていた私たちの入学式は、広い会場では行われず、心地よい空間ではありましたが狭い教室の中から始まりました。新型コロナウイルスの流行により、教室内で呼名を受け、保護者の列席は、もちろん叶いませんでした。授業も、最初のうちはオンラインで行われ、学校で友人と談笑したり対面で授業を受けるなど、今まで当たりまえに出来たことが出来ない日々が続きました。オンラインで行われるホームルームの中、画面上で知り得た友人たちの顔を見て、早く学校に登校したい、と日々思いながら過ごしたことが今も思い出されます。数か月後に漸く学校に登校できるようになってからも、マスクを付けたままの密を避ける配慮を重ね、昼食もまた楽しくおしゃべりをするのはできず1席置きの黙食を固く守ったりと、制限の多い生活が続き、行事なども縮小あるいは中止されざるを得ず、文化祭はかろうじて分割での開催となり外部からの来場はできず、宿泊行事は三年間で一度もありませんでした。

ただし、私たちの三年間が絶望に染まっていたかという、そうではありません。私たちは、大切な日々の中で、むしろ制限があったからこそ決して自暴自棄することなく、逆に多くの知恵を得る機会に恵まれました。そして、何より、本音で助け合えるかけがえのない多くの友人を得ることができました。大切な友人たちと制限がある中で最大限の配慮と工夫を大切にしながら、スポーツ大会や、西武園への遠足など限られた学校行事にも全力で取り組み、共に勉学に励んだ時間は、とても楽しく、有意義で、この上なく贅沢で色あせることのない大切な思い出となりました。今日、卒業という現実の中、晴れやかな喜びを覚える一方で、そんなコロナ禍があったからこそ得られた、かけがえのない友人達との別れには、寂しさを感じずにはられません。

しかし、程なくして私たちはそれぞれの道を歩み始めます。その前途には多くの試練も待ち構えていることでしょう。しかし、新型コロナウイルスの流行による被害を最も強く受け、人事を尽くしてそれらを乗り越えた世代である私たちであれば、特に自身の目の前の課題に真摯に、忍耐強く取り組むことのできる気質を養うことのできた、ここにいる私たち卒業生は、必ずこれから先の多くの困難にも打ち勝ると信じ応援し続けていただければ何より有難く存じます。私は、三年間の生活を通して、これほどまでに優れた能力・気質を持つ友人たちに囲まれながら三年間の麗高生活を過ごすことができたことを、誇りに思います。

そして今日、私たちはこの会場でようやく家族に、式典での姿を披露することができました。三年間、あまり見てもらうことができなかった学校での私たちの姿は、今どのように映っているのでしょうか。高校三年間で私たちはこれだけの成長を遂げることができました。これだけ大人になれました。どんな状況でも1番近くで私たちを見守り続けてくれた家族。ここまで数え切れないほどの苦勞をかけたにもかかわらず、私たちのそばに寄り添い、私たち

の目に見えないところでも支え続けてくれた家族には、感謝を伝えても伝えきれません。本当に、ありがとう。

在校生の皆さん、先程は心温まる送辞の言葉をありがとうございます。私たちは皆さんの目にどのように映っていたのでしょうか。私たちは最高学年としてのあるべき姿を皆さんに見せることができていたのでしょうか。なにか一つでも皆さんの成長の糧になるようなことを残せたのであれば、卒業生としてこれ以上の喜びはありません。四年生・五年生共に、来年度から受験というものをより一層意識し始めることになると思います。その中で、辛い場面や苦しい場面に出くわすこともあるでしょう。そんな時、一番の支えとなるのは自分の周りにいる仲間たちです。同じ時間を共有している仲間の努力している姿は必ず自分を奮い立たせてくれます。私も同じクラスの仲間が懸命に努力している姿に何度助けられたかわかりません。一方で、逆もまた然りです。皆さんのひたむきに努力を重ねる姿が周りの仲間の糧となります。自分は一人じゃない。自分には頼もしい仲間がいるという自覚を持って、これからの生活を過ごしてもらえればと思います。

また、どんなときでも私たちを見捨てず、最後まで私たちに向き合い、熱心に指導してくださった先生方。先生方の想いに、私たちはこたえることができたでしょうか。壁にぶつかり諦めそうになったとき、自分自身の道を見失いかけたとき、先生方は私たちを支え、導いてくれました。先生方の支えがなければ、私たちの進路実現もありませんでした。本当に、有難うございました。

最後になりますが改めて、本日御臨席賜りました理事長先生、ご来賓の皆様、校長先生をはじめとする教職員の皆様、在校生の皆さん、そして保護者の皆様。このような盛大な式典を催していただいたこと、心より御礼申し上げます。皆様のご健勝・ご活躍と、麗澤高校の輝かしい発展を願い、卒業生216名の答辞とさせていただきます。

高校生活を振り返って

6年 高澤 幸

麗澤高校での3年間を通して、私は大切なことに気がつくことが出来ました。

中学3年の夏、学校説明会に参加し、初めて麗澤高校を訪れました。そこで、私は麗澤高校の雰囲気強く惹かれました。また人前でも堂々と明るい声でプレゼンをし、笑顔で挨拶をする高校生の姿を見て、私は憧れの気持ちを抱きました。

またもう一つ、麗澤高校への入学を希望した理由があります。それは、道徳を学び大切に学校だということです。私は中学のときまで、自分のことが好きではありませんでした。自分の思いを伝えることが苦手で、苦しむことが多くあったからです。道徳を学んで、新しい自分になりたい。そんな思いがありました。

麗澤高校に入学してからの日々を思い返してみると、私は沢山の素敵な出会いに恵まれたと思います。入学してすぐに勉強についていけなくなった私に、個別で勉強を教えてくださいました先生。様々なことを優しく教えてくださいました先輩。嬉しいときも悲しいときもそばにいてくれた友達。挙げていくときりがなくらい、私はたくさんのひとに支えられました。

また、STARのメンバーとなり、副リーダーとなって仲間と協力して企画を成功させたときには、あのときの先輩に近づけているような実感があり、誇らしい気持ちになりました。

他にも、私の中にずっと残り続けるような、大切な思い出がたくさんできました。日本文化部で共にお琴や茶道を学ぶ友達と、笑いあいながら帰ったことも、クラスメイトと協力しながら文化祭に向けて準備をしたことも、そして夢に向かって友達と励まし合いながら勉強したことも、全部私の中にきらきらと残る宝物になりました。

そして、この3年間を通して気づくことのできた、大切なことがあります。それは、私はたくさんの「思い」を受けとって生きているということです。この3年間、私は様々な場所でボランティアを行いました。その中で、沢山の人の思いを知ることができました。「一人でも多くの人を笑顔にしたい」という思いで子ども食堂の活動を行っている方や、「できることを増やしてあげたい」という思いで児童発達支援を行う方と共に活動したことで、温かい思いに触れました。他にもゴミ拾い活動や介護施設でのボランティアを通して、私の毎日もたくさんの人の「思い」の上で成り立っているのだということを強く感じました。

家族、友達、先生方、そして沢山の顔の見えない人たち。思いを通して、みんなが一つに繋がっている。私はそのことに気づくことができました。そして、私も自分が見つけたものや多くの人たちの思いを、伝えていきたいと思うようになりました。道徳を通して自分の目標とする生き方を見つけ、自分のことを好きだと思えるようになった今、私は教師を志しています。将来は麗澤の先生方のような、「まごころ」を持った大人になりたいです。どんなときも自分を支えてくれるたくさんの人への感謝を忘れずに、自分にできることを精一杯やっていきたいと思っています。そしてなによりも、幸せに生きられる今を、大切に生きていきたいです。

終わりよければすべてよし

6年 野本 怜那

私が麗澤で過ごした六年間は、様々なことを経験し、色々な人と出会い、たくさんを感じ考えた日々でした。その中でも私を大きく成長させてくれたのは、部活動、寮生活、学校生活です。

私は中学1年生の時に部活動紹介で見た2つ上の先輩に憧れて、空手道部に入部しました。入ってみると休みは少ないし空手は思っていた以上に難しく、何より練習が本当に本当にきつかったです。入部して2週間も経たないうちに空手部に入ったことを後悔しました。ですが一度始めたことを途中で止めるのは私のプライドが許さなかったので後に引くこともできず、結局6年の6月に引退するまで部活に行き続けました。正直練習は本当に本当に本当にきつかったのですが、それを最後までやり抜いたというだけで私の自信になりました。また、5年生になる頃になってやっと少し空手をする意味が分かり始めました。辛い練習中、隣で歯を食いしばっている同級生を見た時、お忙しい中少しでも私達の練習を見ようと来てくださる先生を見た時、どんなに体が疲れていても不思議と力が湧いてきました。心から尊敬する先生方と、大好きな仲間と過ごした部活生活は私にとって何よりも大切なものになりました。空手部に入りたいと思わせて下さった

先輩に本当に感謝していますし、最後まで続けた自分にもありがとうよくやった、と言いたいです。この先空手をしなくなっても、空手を通して得たものはずっと残るしずっと私を支えてくれると思います。空手部に入って本当に本当に本当にきつかったですが、それと同じくらい本当に楽しかったです。

高校では三年間寮生活を送りました。最初のうちは慣れないルールや生活で戸惑うこともありましたが、過ごしていく中で、今までの人生で経験したことのないくらい辛い経験も何度もしました。ですが私は寮に入らなければよかったと思ったことは一度もありません。寮に入って良かったと心から言えます。それは寮での経験は辛いこともありましたが、その分多くのことに気づくことができたからです。何もなくてもいつも誰よりも心配してくれた両親や、家族と離れた時に支えてくれた友人達、親のように心配して相談に乗って下さった先生方、他にも多くの素敵な人との関わりの中で、自分はどんなときも誰かに支えられているということに気づきました。寮での学びは様々ですが、どれもが私の中では大切な宝物です。寮に入るという選択をしたおかげでこの上ないくらい充実した高校生活になったと思います。

6年前の受験期、小6だった私はそれまで受けた学校に全落ちしていました。塾も学校も行かずに嫌で嫌で家に引きこもっていました。麗澤中学入試二日目の朝、私はこたつの中にもぐって「嫌だ行きたくない」と泣きわめいていました。その時「今まで頑張ってきたんだから、行けよう」と私の手を引っ張って無理やりこたつから私を引きずり出してくれた母親がいなければ、私はここには来ていませんでした。改めて、麗澤に入るまでの私を支えてくれた家族や親戚に感謝したいです。

最後に、小学生の時のある経験から、麗澤中学に入学するときの私の目標は、麗澤高校を卒業するまでに強くなることでした。まだ私の高校生活は終わっていませんが、きっと、卒業する時に少しは強くなったと胸を張って言えると思います。

6年間、良いことばかりではなかったし楽なことばかりでもありませんでした。むしろ辛くて忙しくて大変でこの日々はいつまで続くんだろうと置いていた時もありました。それでも大好きな先生方の授業が楽しくて、友達とくだらないことで盛り上がるのが楽しくて、部活で褒められるのも注意して頂くのも嬉しくて、いつの間にか辛かったことが辛くなくなっていました。早く卒業したい早く終わりたいと、いつも授業中でもカレンダーを見つめていたときがありました。今、卒業の3ヶ月前になって正直まだ卒業したくないです。まだここにいてみんなと高校生活を送りたいです。” 終わりよければすべてよし” という言葉があります。物事は結末が大事であり、過程は問題にはならないという意味です。ですが私は、結末が良かったのなら、その過程は全てその結末のために必要なことだったのだと思います。卒業しても忘れたくても忘れられないし、絶対に忘れたくない大切な中学高校生活になりました。支えて下さった人、出会って下さった全ての人に感謝したいです。いつか恩返しができるような立派な人間になります。本当にありがとうございました！！

三年間を振り返って

6年 田中 陽介

2020年に入学した僕達は、三年間を通してコロナ禍にさらされ、世間的に見れば、不幸な高校生活だったかもしれません。三年間で一度も日をまたいだ遠出や合宿はなかったし、文化祭や体育祭などの行事も、規模が小さく、制限の大きいものでした。黙食にマスク着用、外出自粛など、日常を送ることすらままならないような生活でした。そんな自分の三年間を可愛そうだと思うひともいるかもしれません。ただ、僕はそこまで、この生活が嫌ではありませんでした。もちろん、そもそも自分がインドア派だとか運動が得意ではないとか、利害が一致しているという部分もあるかもしれません。しかし、それ以上に、振り返ってみて、楽しくないと感じたときがあまり無いという理由があるのです。文化祭では、より厳しいルールの中で、どうすれば自分たちの作りたいものを完成させられるか、試行錯誤しながら過ごす時間は、決してつまらなくなかったし、普通の文化祭よりも考えることが多く、コミュニケーションを綿密に取らなければならなかったため、一体感が生まれたようにも思えます。積極的な交流が推奨されていないコロナ禍では、友達と遊ぶときも気にすることが多い反面、苦手だなと感じる人と適度な距離を保てるといった利点もあります。これらは、ある意味コロナ禍であったおかげで得られたものだと思います。この三年間で僕が出した結論は、何をするにしても、考え方や捉え方次第で、良いものにも悪いものにもなるということです。人は何かと、自分の不幸を状況や他人のせいにしがちです。それでは、自分が悪いのではないと安心できても、残るのは虚しさだけだと思います。自分に不利な状況でこそ、自分の力を発揮するチャンスだと捉え、成功をつかもうとすることで、自分にとって満足のいく結果を得られるのです。

麗寮で学んだこと

6年 三好 志歩

私はこの人達みたいに麗澤には染まらない。卒寮するとき寮で良かったなんて絶対言わない。入学当時私が両親に向けて発した言葉です。

私達三年生の高校生活はコロナによる厳しい制限の中スタートしました。慣れない環境の中、今では考えられないような生活を強いられた私はきつとやけになってそのようなことを言ったんだと思います。山梨の田舎から出てきた私は千葉という環境に強い憧れをもって入寮して来ました。しかし、待っていたのは寮の厳しいルールと全く外出できない環境、そしてきつい練習でした。一般寮の挨拶や言葉使いにも驚きを隠せずにいました。今でこそオフの日には外出したりなどできますが一年生の頃は秋口までどこにも行けないような毎日で3人で行くスーパーが唯一の息抜きだったことをよく覚えています。こんな感じで始まった生活でしたが、振り返ると様々な思い出があり、学んだことが沢山あることに気づくことができました。

まず1つ目に周りの環境です。先にも述べさせて頂いた通り正直私にとっては辛く苦しい環境でした。今まで各家庭で違う生活をしてきた人同士が集まり共同生活をするのですから無理もありません。ちょっとした違和感やすれ違いは必ず起こりうるものです。けれど、この環境が私を

成長させ大きく変えてくれました。一緒に暮らしているからこそ問題が起こりますが、その問題を解決してくれるのも一緒に暮らしている仲間です。辛いときに支えてくれるのはそばにいた仲間の存在でした。私は高2の秋に右肩の手術をしました。術後二週間は実家で過ごしましたが、その後は寮でみんなに手伝ってもらいながら生活をしました。右手が全く動かないのでほとんどのことを一人ですることができず、着替えから入浴まで誰かにやってもらわなくてはならない状況でした。しかし、誰一人嫌な顔せず丁寧に手伝ってくれました。私はこの時寮で良かったと心の底から思いました。他人のことを思いやり、互いに支えあえるのは寮だからだと思います。これ以外にも寮では怪我をした際や具合が優れないときは互いに手伝い合う様子がよく見られます。人の暖かさが感じられるそんな空間があるのは寮だからだと思います。

次に私が学ぶことができたのは両親への感謝です。今までは両親がやってくれていたことを自分でやり始めたときに両親の偉大さを感じました。当たり前のように畳んであった洗濯物や片付いていた部屋が恋しくなり両親の凄さを実感しました。入寮当初は何をやるにも戸惑っていた私ですが今となっては当たり前のようにできるようになったと思います。

先日行われた全国大会で私達は6位という結果になりました。全国制覇を目指していた私達には正直受け入れがたいものでした。一日目のパルズ戦のあと私は、みんなが泣いている中なかなか現実を受け止めることができずにいました。そこで両親に連絡し面会をしに行きました。両親の顔を見てやっとな感情が湧いたのか私はその場で号泣してしまいました。ただただ負けたことがショックで、悔しくて、感情を整理できずにいた私に両親はこんな言葉をかけてくれました。

「一生懸命戦っている姿はカッコよかった。けどこれが現実だし、明日もある。負けた今だからこそこれまでの努力と行動が問われると思うよ」と。そして「明日の相手に失礼だから切り替えて全力で勝ちに行きなさい。」言葉を聞いて私はようやく顔を上げることができました。この言葉がなかったら私は次の日も切り替えられずにいたと思います。両親の偉大さとカッコよさに改めて気づくことができた瞬間でした。

このように寮生活や部活動を通して様々なことを学び、自分なりに成長することができていると思います。学んだことをここで完結させるのではなく、これからの人生に活かしてこそ麗澤に来た意味があると思っています。初心を忘れず何事にも全力で取り組んで行きたいと思っています。

男子寮体験発表（保護者学級時）

5年 青木 優

自分は、4月から5年生になりました。そこで今日は、1年間寮生活を通して学んだことと、下級生を育成する際に学んだことについて、お話をさせていただきます。

まず自分が1年間の寮生活を通して学んだことの1つ目はいつも支えてくれる友達の大切さです。自分は性格上あまりポジティブでもないし、どちらかというと細かいことにも色々考えてしまう性格をしているので、悩み事をあまり人に相談せず溜め込んだりしています。だからすぐに暗くなったりします。一時期は寮をやめたいなどと思うこともありましたが、ですがあまり相談しない自分の性格を知っているからか、寮の同級生は「なんかあった・・・？」などと声をかけてくれます。普段はあまり言いませんが、自分はそういうふうに気付いて声をかけてくれるのがとて

も嬉しいし、今の自分の支えになっています。話を聞いてくれているうちに泣いてしまったりすることもあります。いつも優しい言葉をかけてくれるので、本当に嬉しいです。あまり友達の前で泣くということはないため、それほどまでに心を許せて信頼できる友達ができただけで、とても嬉しいです。

2 つ目は両親への感謝です。寮生活をして1年がたち、寮生活に慣れてきた自分でも未だに大変なのが洗濯です。いつもやろうとしているのに、後回しにしてしまったりやらなかったりします。他にも夜ご飯の時間が決まっていたりなどもします。しかし、家では両親が洗濯物をやってくれたり、食事好きな時間に好きな物を出してくれたりします。それから自分の周りのものを揃えるのに、意外とお金がかかることも知りました。寮生活をしているとこういう感謝について日頃から考える機会が増えました。これからは考えるだけでなく、感謝を伝えていけたらいいなと思っています。

3 つ目は相手への気遣いを学びました。寮や高校に入って一番考えるようになったのが人間関係です。寮にいと常に同じ空間にいるため、相手の悪いところがどうしても見えてしまうものです。しかし、そこで相手にある程度の気遣いをすることで、普段はあまり喧嘩などが起きないように気を配ったりしています。それを日常的に意識しているので、それが学校の友達にもできるようになり、友好関係の幅が広がりました。

そして最後に、5年生という立場になって成長できたことは、色々な立場になって物事を考えられるようになったことです。4年生を指導するときは、自分がされて嫌だった事、納得できた事、成長できた事、いろいろな注意を受けた中で、どのような場合にどのような教え方をしたほうがよいのか、自分の中で最適な正解を出して教えるように心がけています。そして逆に、自分が4年生だった時の5年生は何をどのくらいやったら、どのくらい周囲に迷惑をかけるのかということ、自分も上級生の立場になってみて初めてわかったことが何回かありました。自分が4年生のとき、あんなに注意する必要のないのにと思っていたこともありましたが、今思うと上級生の方はこんな気持ちで注意されていたのかがとてもよく理解でき、上級生の方々が自分たちの成長を思って注意してくださっていたことが、とても良くわかりました。

これらの寮生活で学んだことをこれからも継続して、寮担任の先生がいつも仰る「麗寮は宝の山」という言葉の宝をもっと見つけられたらいいなと思いました。

「率先善を認め、勇を鼓してこれを貫く」 (格言研究)

5年 矢野 佐和子

皆様は、間違っていることや自分がやりたくないような事を、周りに流されて選んでしまったという経験は無いでしょうか。私は過去に何度もこのような経験をし、その度に後悔を繰り返しました。学校でも寮でも集団で生活していると、自分だけ違う方を選ぶのはとても勇気がいることで、たとえそれが間違っていることだとしても、自分だけ違う方を選んだら周りの友達が離れていってしまうかもしれないなどと心配したりして、その事が良いか悪いかよりも、今の自分にとってどちらが良いのかと、自分中心に考えて判断してしまいがちです。

この格言の説明にある「人心これ危うく、道心これ微かなり」という言葉にあるように、人は善悪の判断は容易についても、それを行動に移す決定を左右するのは、人の欲などを含む人心であって、周囲や社会全体にとって正しいことを選択するにはとても勇気がいります。しかし、良いことをしても悪いことをしても、必ず誰かがその人の行動を見ていて、良い行動をすればそれを見た人はあんな人になりたいとその人の行動を真似ます。人は他人の行動を見てそれを真似て多くの事を覚えていきます。間違っていることも正しいことも必ず誰か見ていて真似る人がいて、一人の行動が悪循環にも良い循環にもつながります。特に、寮生活ではどちらも良く起こることだと思います。

今学期から部屋中となり、お世話をさせて頂く側となりましたが、私が4年生の時そうだったように、下級生は上級生の姿を見てそれを真似て、役割やルールを覚えていくため、私のちょっとした行動から悪循環が起こってしまうかもしれません。上級生、下級生の間だけでなく同級生同士でも、ちょっとしたことから対立に繋がることもあると思います。そのため、いつも自分の行動は誰かに見られているという自覚を持ち、真似したいと思われるような行動を心がけていきたいと思っています。

「秩序を確守して自由を尊重す」

6年 松野 由奈

この格言に書いてある通り、秩序を確守していくためには、規則やルールが存在します。私は、入寮した当時、分単位、秒単位で決まっている日課、細かいルールに驚き、必死に自分の身体にしみつくように、毎日部屋っこノートを見返した記憶があります。時々「なんでこんなに細かいルールがあるんだろう。守る必要ってあるのかな？」と考えたことがありました。しかし、それは寮生活をすればするほど、立場が変われば変わるほど理解ができるようになりました。私が考える寮のルールの究極の目的は「みんなが幸せに快適に生活するための基準」です。入寮したきっかけも違えば、今までの家庭環境、性格も違う同年代が同じ空間の中で、ルールなしでみんなが幸せに快適に生活することは、絶対とは言えませんが難しいことだと思います。それぞれの異なった価値観や足並みを揃えるためにもルールや規則は必要なものだと考えます。たとえ、ルールを破ったときに誰にも見られていない、誰にも迷惑をかけていないとしても、間接的に誰かにとっての害となり、また、誰かを傷つける行為になりかねません。お互いがよりよく生活していくためにも規則やルールをおろそかにしてはいけないと思います。

そして、この17寮で生活できるのも残り二週間程度となりました。再来週に4、5年生は研修旅行を控えているため、実質約一週間です。日々笑顔が絶えないひだまりのような17寮を、最後まで全員で築いて参りましょう。

麗寮で学んだこと

4年 大野 正悟

私が寮に入る前の寮の印象は楽しそうな半面大変そうだし、親から離れるのは大変そうだなと思っていました。寮見学に来たときに先輩が明るく迎え入れてくれて、礼儀がとても良かったので、自分もこんな人間になりたいなと思いました。

入寮前の自分は親に洗濯、皿洗い、掃除などをすべて任せているという自分のことの殆どを親に頼るような生活を送っていました。しかしその時はそれらのことは親が当たり前に行ってくれていたもので、何の感謝も感じず自分のことを任せていました。

入寮当時の自分は、正直やろうと思えば自分のことぐらいできるだろうと思っていました。しかし実際は掃除や洗濯などを自分でやろうとすると全然うまくできず、洗濯を忘れて着る服がなくなったりしました。その経験から洗濯をする曜日を決めたりなど、自分自身のリズムをうまく作れるようになりました。また食事は家では親が栄養バランスを考えてくれていましたが、寮では夕飯のときに好きな肉しか食べず食の栄養バランスがめちゃくちゃになっていました。帰省のタイミングで家に帰ったときに親の料理の種類をしっかりと見てみると栄養バランスがとても考えられていると思い、普段自分が思っていたより親は自分のことを色々考えてくれているんだなと思いました。またハガキデーに自分がハガキを書いて送ると必ず親からハガキが帰ってきたり、部活や学校生活の相談をしていると「元気だしなよ」、とケーキを送って励ましてくれました。これらの経験により親への感謝と自分自身の管理がよりできるようになったと思います。

他にも最初の頃は部活動と寮の両立ができませんでした。かなり大変な部活動だった分、仕事を忘れて部活が終わってから帰ってくると疲れ切ってきて何もできないような状態になったこともありました。しかしそんなときに「代わりにやるよ」と言って他の四年生が代わりに仕事をやってくれたりしていて、そういったときに寮の中で助け合うことの大切さをより感じる事ができました。

また寮に入ったときは周りの上級生がとても大きな声でしっかりと礼をしているところを見て正直自分がここまで礼儀正しくなれるのかなと疑問に思っていました。最初の頃は見様見真似で上級生の真似をしていたら次第に自分なりにきれいに挨拶できるようになったと思いました。また寮の中で挨拶する習慣ができたおかげで学校や部活動でも積極的に挨拶するようになり、挨拶のおかげで自分の中で気持ちよく一日を過ごしていくようになりました。

寮の中には卒業された6年生含め勉強、部活、寮生活、礼儀で尊敬できる上級生が何人もいます。新しい寮生ももうすぐ入ってくるので尊敬できる上級生を手本にして自分もそんな存在になれたらなと思います。

麗寮で学んだこと

5年 寺崎 蒼朔

自分が麗寮に入寮して約2年色々なことを体験し、いろんなことを学びました。中でも自分のためになったと思うのは、苦手なタイプの人との付き合い方、そしてコミュニケーション能力についてです。入寮する前、自分は苦手な人との会話は最低限、気の合う友達や話しやすい友達と

ばかり会話していました。入寮当初も話しやすい同級生、先輩とだけ話していました。先輩に指導していただく中でもこの先輩苦手だなんて思う先輩もいましたが、苦手だからといってあからさまに避けるのではなく、言われる自分にも否があることを認め、話をちゃんと聞いたほうが良いことがわかりました。また、苦手な同級生も案外話してみると息の合う部分があったりしました。いろんな同級生先輩と話していくうちに、自分の勝手な偏見で話さないだけで案外苦手なタイプかなと思っている人も、話せばいい人だったり案外気があったりするということを学びました。今、この場で話すことも入寮する前は無理だったと思います。いままで人前にたつのが苦手だった自分も「話せばなんとかなる、勝手な偏見で決めない、苦手でも話は聞く」をモットーに人前に立つのが怖くなくなりました。

次に、学べたことは、さっきもちょっと話に出てきましたが、自分のミスは認め次に生かしていくことです。今この場にいる、男子寮 5 年生の中で自分が一番仕事をミスし、一番指導された気がします。ミスするたび、多くの先輩に指導されその度嫌になっていましたが、5 年生になって自分が指導されていたのは自分のミスからだし、指導する側も注意したくてしているわけではない事に気が付きました。逆にもうこいつに伸びしろがないと思うと指導したくなくなることに、指導してもらっているうちはまだ先輩に信じてもらえていることがわかりました。先日元 2 寮寮長の津田さんと話をしていたとき「寺崎は沢山の先輩にたくさん怒られたと思う。そのこと一つ一つに意味があったと思うから先輩に指導された経験を忘れずにあと一年寮生活頑張れ。」と言われました。この言葉は人に誇れることではありませんが、自分が指導していく中で感情的になるのではなく、ちゃんと意味を考えて指導しなきゃいけないなって改めて思い直すきっかけになりました。

4 月からは最上級生になるけど、4 年生 5 年生で学んだことを忘れずに、後輩に指導するときにも、津田さんに言われたことを忘れないで行きたいと思います。今の自分の背中では後輩に見せられるようなものではないけど、先輩として来年の 3 月に今の 4 年生とこれから入ってくる新寮生の人たちに、あの先輩良かったなって思ってもらえるようにあと一年頑張っていきたいと思います。また、これからの受験生活目標の志望校に合格できるように勉強頑張っていきたいと思います。